

「見て感じて体験しよう、亜熱帯の島」

沖縄アミークスインターナショナル 6年生 しまぶくろ 島袋 ともひろ 智滉

沖縄には色々な観光地があります。例えば美ら海水族館や首里城などです。

もし、ぼくが沖縄を訪れる観光客だとして、ガイドブックにのっている観光地を全て周り、ダイビングやガラス工芸体験など、全て体験したとしましょう。さて、次に沖縄を訪れる時は、どこにいて、何をして、何を感じたいと思うでしょうか。

沖縄は日本本土とは違い、亜熱帯気候です。よく「沖縄には四季がない。」という言葉を目にしますが、沖縄には亜熱帯独特の気候変化があります。感性が豊かで感受性が敏感でないと微妙な季節の変化を感じることはできませんが、季節の変わり目を風で感じる事が出来るのです。亜熱帯気候の沖縄はその気候を生かして、米を二期作で収穫したり、また、うるま市では、青々とした沖縄ビーグ（い草）を収穫したり、茶摘みや沖縄の基幹産業であるサトウキビが収穫されています。

そこで、ぼくの提案です。

国土のわずか0.6%しかない沖縄における米軍基地の占める割合は、74%です。基地を全部返還してもらい、沖縄全部をテーマパークと考えます。ディズニーランドやUSJの年間パスのように、沖縄の年間行事を年間パスにして販売し、年間を通して観光客に行事を体験してもらう事ができるようにするので。例えば、サトウキビ収穫や健康祈願を目的としたムービー作りに参加したり、また、沖縄ビーグの収穫や畳作りに参加する等の体験を提供するのはどうでしょうか。

沖縄ビーグは生産量が少なく、ほとんどが兼業農家です。また、うるま市の限られた地域でしか育たないので、とても価値があります。沖縄ビーグで作られた畳は、畳の表替えができ、とても丈夫で、また、ビーグの香りはハーブのように気持ちをリラックスさせてくれて、畳の生活がある国に生まれてきて良かったなあと感じさせてくれるほどです。

このような付加価値を付けることによって、畳の値段が上がり、兼業農家を脱して、沖縄ビーグのみで生活でき、それを生産する農家も増えると思います。

また沖縄には、闘牛大会やピージャーオーラサイ（山羊の闘い）、空手の文化やウチナーグチ（沖縄の島言葉）で演じられる組踊り等もあります。年間パスの中に、それらの行事も組み込んで見学できるようにするので。

世界地図で見ると、本当に小さい島でしかない沖縄ですが、かつて独立した琉球王国であったことを思うと、とても誇りに思います。

地元の人を大切に、そして、これからも、国内外、老若男女や障がいの有無に関わらず、全ての人々が沖縄の気候風土や文化そして沖縄の人の美ら心に触れるような観光が継続し、発展していけばいいなあと思います。